

# 宮城県稲作情報

宮城県米づくり推進本部  
(事務局 宮城県農林水産部農産園芸環境課)

平成27年 8月25日発行

第 5 号

編集者

宮城県古川農業試験場

発行所

公益社団法人 みやぎ農業振興公社

## 気象経過と生育の特徴

### 【気象】

- 7月下旬・8月上旬の気温は平年より高く、日照時間は平年より多く、降水量は平年より少なかった

### 【水稻】

- 県平均出穂期は7月29日（平年より8日早い）
- 出穂期前後の気象は高温多照、出穂期後15日間の日較差が大きい
- 斑点米カメムシ類は平年より多く、穂いもちは平年よりやや少ない予想

### 【大豆】

- 標播：開花期は平年並、主茎長は平年並～やや短い、総節数は並～やや多い
- 晩播：開花期は平年並、主茎長は平年並～やや長く、総節数は平年並～やや多い

## これからの栽培管理要点

### 【水稻】

- 収量・品質向上のため、落水時期は出穂後30日前後から行う
- 平坦部中生品種「ひとめぼれ」の刈取目安は、9月6日頃から（出穂期以降の積算温度から推定）
- 収穫用機械・乾燥調製施設等の点検・整備を早めに行う
- 適期刈取りと適正な乾燥調製で良質米生産

### 【大豆】

- 病害虫の適期防除

### 【麦類】

- 適期播種

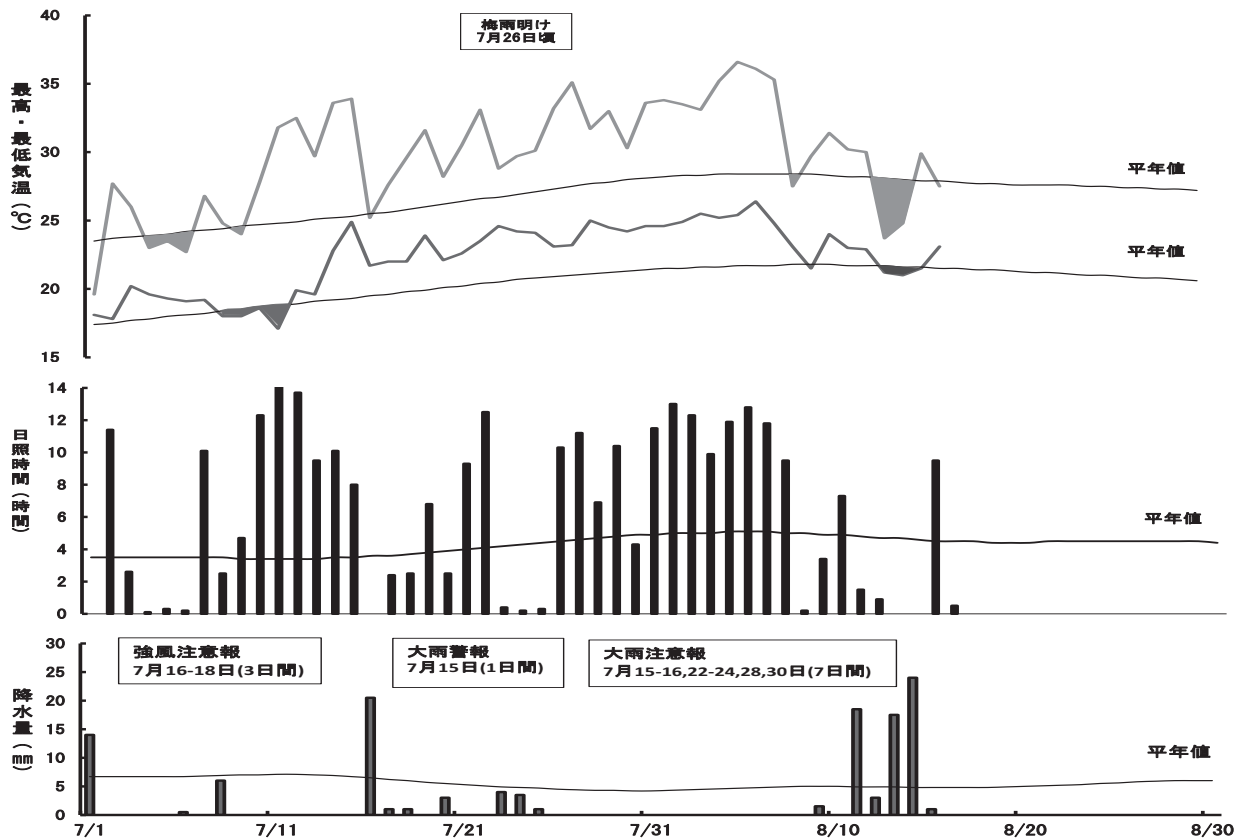


図1 気象経過（観測地点：仙台アメダス，7月1日～8月16日）

# 気象経過

## 7月下旬から8月上旬高温多照

### 【7月下旬～8月上旬の気象経過（仙台管区気象台提供）】

- ・7月下旬のはじめは梅雨前線の影響で曇りや雨の日があったが、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。8月上旬は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。
- ・梅雨明けは7月26日頃（平年より1日遅い）。
- ・仙台アメダスにおける7月下旬の平均気温は27.2℃（平年差+3.5℃）で平年よりかなり高い、積算日照時間は77.3時間（平年比154%）で平年より多く、積算降水量は8.5mm（平年比17%）で平年より少ない。8月上旬の平均気温は28.2℃（平年差+3.6℃）で平年よりかなり高く、積算日照時間は92.1時間（平年比175%）で平年よりかなり多く、積算降水量は1.5mm（平年比3%）で平年より少ない（図1、表1）。

表1 7月下・8月上旬の気象表（各アメダス地点）

地点	7月下旬（7/21-31）				8月上旬（8/1-10）			
	平均気温（℃）		積算日照時間（hr）		平均気温（℃）		積算日照時間（hr）	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年差	本年	平年比
気仙沼	25.6	3.2	78	131	26.1	2.8	81	144
川渡	25.9	3.4	74	164	26.3	3.0	78	173
築館	26.6	3.3	77	175	26.8	2.8	84	191
米山	26.6	3.3	79	138	26.9	2.8	84	157
古川	26.7	3.3	82	163	26.9	2.6	85	171
石巻	25.8	3.0	72	127	26.8	3.1	93	160
仙台	27.2	3.5	77	154	28.2	3.6	92	175
白石	26.1	2.7	79	154	26.9	2.6	84	168
亘理	25.6	2.2	74	135	26.5	2.2	89	167
丸森	27.0	3.5	79	147	27.3	3.0	91	168

注）平年値は30ヶ年（昭和56～平成22年）平均値

# 出穂期前後の気象

## 高温多照，出穂後の日較差大きい

- ・出穂期前25日間，出穂期後15日間は平年より高温多照，出穂期後15日間の日較差は9.6℃（平年差+1.5℃）と大きかった（表2）。

表2 出穂期前後の気象（古川アメダス）

年次	県出穂期	出穂期前25日間				出穂期後15日間			
		気温（℃）			積算日照時間（hr）	気温（℃）			積算日照時間（hr）
		最高	最低	日較差		最高	最低	日較差	
平成22年	8月3日	29.5	21.1	8.5	135	31.9	23.2	8.7	81
平成23年	8月7日	27.9	19.8	8.1	102	29.8	21.3	8.5	86
平成24年	8月6日	28.7	20.0	8.7	116	29.6	20.9	8.7	86
平成25年	8月6日	24.3	18.3	6.0	51	31.5	21.6	9.9	113
平成26年	8月2日	29.5	21.6	7.8	163	28.5	21.9	6.5	61
本年値	7月29日	29.4	20.0	9.4	157	31.8	22.2	9.6	103
平年値	8月6日	27.4	19.6	7.8	105	28.7	20.6	8.1	67
平年差・比	▲8日	2.0	0.4	1.6	150%	3.0	1.5	1.5	153%

注）平年差比：過去5ヶ年（平成22～26年）の平均値との差比

# 生育経過

## 県平均出穂期7月29日（平年より8日早い）

### 【出穂期】

- ・県の平均出穂期は7月29日と，平年より8日早く（表3），県内全域で同様の傾向である（表4）。

表3 出穂期の比較1（県全体）

	出穂始期	出穂期	穂揃期
本年	7月26日	7月29日	8月7日
前年	7月30日	8月2日	8月8日
平年	8月3日	8月6日	8月12日
平年差	8日早い	8日早い	5日早い

注）平年値：過去10ヶ年（平成17～26年）のうち、最も早い年と遅い年を除いた8ヶ年の平均値

表4 出穂期の比較2 (地方振興事務所別)

地域名	出穂始期			出穂期			穂揃期		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
大河原	7月25日	7月29日	▲4日	7月29日	8月3日	▲5日	8月6日	8月11日	▲5日
仙台	7月26日	8月2日	▲7日	7月30日	8月5日	▲6日	8月8日	8月11日	▲3日
大崎	7月25日	8月1日	▲7日	7月29日	8月4日	▲6日	8月5日	8月8日	▲3日
栗原	7月26日	8月2日	▲7日	7月28日	8月5日	▲8日	8月8日	8月11日	▲3日
登米	7月28日	8月2日	▲5日	7月30日	8月4日	▲5日	8月4日	8月9日	▲5日
石巻	7月25日	8月2日	▲8日	7月29日	8月4日	▲6日	8月4日	8月9日	▲5日
気仙沼	7月29日	8月5日	▲7日	8月2日	8月8日	▲6日	8月8日	8月12日	▲4日

注) 平年値：過去5ヶ年(平成22～26年)の平年値との差

【作況試験ほの出穂状況】

- ・古川農業試験場作況試験ほ「ひとめぼれ」の生育ステージは、5/1 移植が全般に平年より早く、他の移植時期は、減数分裂期以降早くなっている(表5, 図2)。
- ・出穂期は5/1 移植では7月25日と平年より9日早く、5/10 移植では7月30日で平年より5日早く、5/20 移植では8月2日で平年より6日早かった(表5)。

表5 移植時期別の各生育ステージの状況 (作況試験ほ)

品 種	移植期	幼穂形成始期		減数分裂期		出穂期		成熟期 (平年値)
		本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	
ひとめぼれ	5/1	6/30	▲7日	7/15	▲3日	7/25	▲9日	(9/15)
ひとめぼれ		7/5	▲4日	7/19	▲1日	7/30	▲5日	(9/18)
ササニシキ	5/10	7/7	▲2日	7/19	±0日	7/29	▲5日	(9/17)
まなむすめ		7/7	▲2日	7/19	±0日	7/29	▲6日	(9/18)
ひとめぼれ	5/20	7/12	±0日	7/23	±0日	8/2	▲6日	(9/21)
ササニシキ		7/12	▲1日	7/22	▲1日	8/1	▲5日	(9/21)

注) 平年差：過去5ヶ年(平成22～26年)の平均値との差

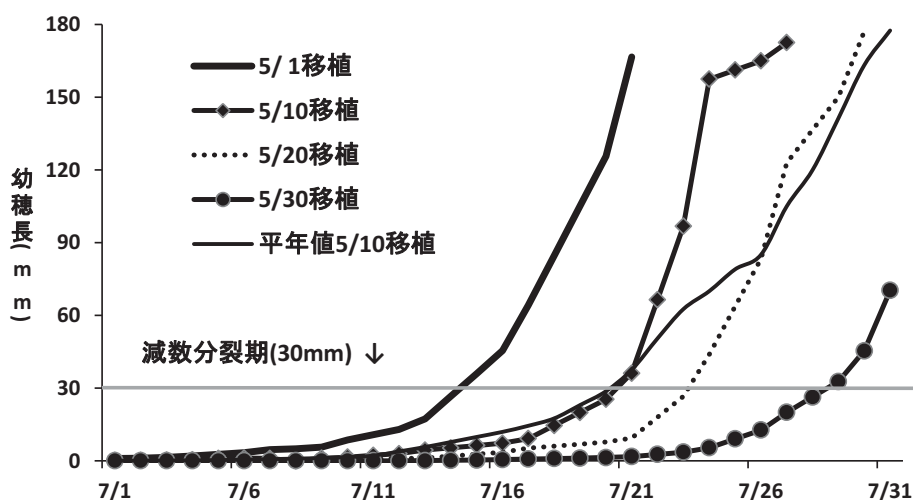


図2 幼穂長の推移 (作況試験ほ)



## 斑点米カメムシ類は平年より多く、穂いもちは平年よりやや少ない予想

### 【発生予察情報：発生予報第8号，8月7日発表】

- ・いもち病：穂いもちの発生量は平年よりやや少ないと予想される。
- ・紋枯病：発生量は平年並と予想される。
- ・斑点米カメムシ類：発生量は平年より多いと予想される。

※詳細は宮城県病害虫防除所の web サイトを参照願います（最終ページに URL 記載）。

## これからの栽培管理の要点

### 【水管理】

- ・刈取り作業を容易にするため、早めに落水する傾向にあるが、早期落水は整粒歩合が低下する。品質向上のため、排水良好ほ場では落水時期を出穂後 30 日前後から行う（図 3）。

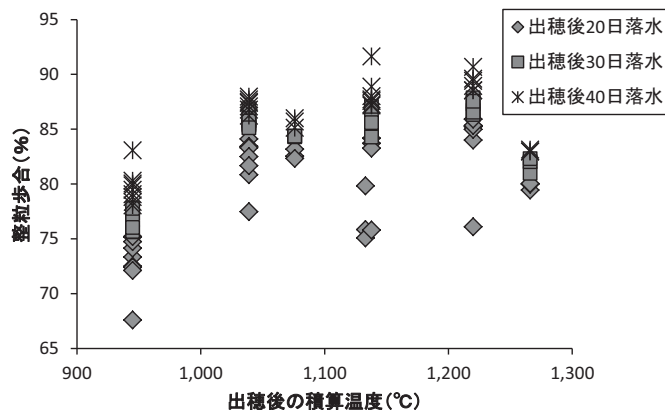


図3 出穂後の落水時期による積算温度と整粒歩合（古川農試：H24-26）

### 【適期刈取り】

- ・刈取り適期は、籾の90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変したときとなるので、葉色にまどわされないよう穂をよく観察し、刈遅れないよう注意する（稲作指導指針）。
- ・刈遅れは、立毛中の胴割粒、穂発芽、茶米などの被害粒の発生が多くなり玄米品質を低下させる。

### 【出穂期後の積算気温による刈取り適期判定の目安】

- ・本年の県平均出穂期（7月29日）からの出穂期後の積算平均気温では刈取り適期が9月6日頃からと予想される（表6：今後の気象条件により異なる場合があり、8月16日までの気象実測値、8月17日以降は平年値で予測）。
- ・刈取り時には、ほ場毎に熟色や籾水分等から総合的に判断することが必要である。

### 【収穫・乾燥・籾摺】

- ・収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因となるので、刈取り後はすみやかに乾燥する。
- ・火力乾燥における籾水分の測定は、測定サンプルから未熟粒を除いて3回以上の測定、また乾燥後の籾水分は、室温（常温）まで下がってから測定し、仕上がり玄米水分を15%とすることが基本である。
- ・過乾燥は胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下等品質低下の原因となるので、乾燥しすぎないように十分注意する。
- ・籾摺は肌ずれ防止のため、籾温を室温まで下げてから行い、またロール式籾摺機の場合は、籾の状態や品種等に合った適正なロール間隔に調整することが大切である。
- ・倒伏した稲や未熟米の多い籾など高水分籾を高温・連続的に乾燥すると、水分ムラや胴割米の発生が増加し、乾燥後の貯留中に青籾からの水分移動により水分の戻りが生じやすくなる。そのため、高水分籾の乾燥には二段乾燥が適しており、籾水分が20%以下になるまで乾燥した後、乾燥を一時中止し、籾の水分むらがないようになってから再度仕上げ乾燥を行うことが大切である。

表6 刈取予測（出穂期後からの積算平均気温到達推定日）

地帯区分	各アメダス地点	基準温度	出穂日						
			7/23	7/26 (出穂始期)	7/29 (出穂期)	8/2	8/5	8/7 (穂揃期)	8/10
			出穂期後の積算平均気温到達推定日						
北部平坦	古川	940℃	8/30	9/2	9/6	9/11	9/16	9/18	9/22
		1,000℃	9/2	9/5	9/9	9/14	9/19	9/22	9/26
		1,100℃	9/7	9/10	9/14	9/19	9/24	9/27	10/2
	築館	940℃	8/30	9/3	9/7	9/12	9/16	9/19	9/23
		1,000℃	9/2	9/6	9/10	9/15	9/19	9/22	9/27
		1,100℃	9/7	9/10	9/15	9/20	9/25	9/28	10/3
	米山	940℃	9/1	9/3	9/6	9/11	9/16	9/18	9/23
		1,000℃	9/3	9/5	9/9	9/14	9/19	9/22	9/26
		1,100℃	9/8	9/10	9/14	9/20	9/24	9/27	10/2
	鹿島台	940℃	8/31	9/3	9/7	9/12	9/16	9/19	9/23
		1,000℃	9/3	9/6	9/10	9/15	9/19	9/22	9/26
		1,100℃	9/7	9/10	9/15	9/20	9/25	9/28	10/2
	大衡	940℃	8/30	9/3	9/7	9/12	9/15	9/19	9/23
		1,000℃	9/2	9/5	9/10	9/15	9/18	9/22	9/27
		1,100℃	9/6	9/10	9/15	9/20	9/23	9/28	10/3
南部平坦	丸森	940℃	8/29	9/2	9/6	9/11	9/15	9/18	9/22
		1,000℃	8/31	9/5	9/9	9/14	9/18	9/21	9/26
		1,100℃	9/5	9/10	9/14	9/19	9/24	9/27	10/1
仙台湾岸	名取	940℃	8/30	9/2	9/6	9/11	9/14	9/17	9/21
		1,000℃	9/2	9/5	9/9	9/13	9/17	9/20	9/24
		1,100℃	9/7	9/9	9/13	9/18	9/22	9/25	9/29
	亶理	940℃	9/2	9/3	9/6	9/11	9/15	9/18	9/22
		1,000℃	9/5	9/5	9/9	9/14	9/18	9/21	9/25
		1,100℃	9/10	9/10	9/14	9/19	9/23	9/26	9/30
	仙台	940℃	8/30	9/3	9/5	9/10	9/14	9/17	9/19
		1,000℃	9/2	9/6	9/8	9/13	9/17	9/20	9/22
		1,100℃	9/7	9/11	9/12	9/17	9/22	9/25	9/28
	石巻	940℃	8/30	9/3	9/6	9/11	9/15	9/18	9/22
		1,000℃	9/2	9/5	9/9	9/14	9/18	9/21	9/25
		1,100℃	9/6	9/10	9/14	9/19	9/23	9/27	10/1
西部丘陵	白石	940℃	8/30	9/3	9/7	9/12	9/16	9/19	9/23
		1,000℃	9/2	9/6	9/9	9/15	9/19	9/22	9/26
		1,100℃	9/6	9/10	9/14	9/20	9/24	9/28	10/2
	川渡	940℃	9/1	9/4	9/8	9/14	9/18	9/21	9/25
		1,000℃	9/3	9/7	9/11	9/17	9/21	9/25	9/29
		1,100℃	9/8	9/12	9/17	9/22	9/27	10/1	10/6
山間高冷	新川	940℃	8/30	9/6	9/10	9/15	9/19	9/22	9/27
		1,000℃	9/2	9/9	9/13	9/18	9/23	9/26	10/1
		1,100℃	9/7	9/14	9/18	9/24	9/29	10/3	10/8
三陸沿岸	志津川	940℃	8/31	9/4	9/7	9/13	9/17	9/20	9/24
		1,000℃	9/3	9/6	9/10	9/16	9/20	9/23	9/27
		1,100℃	9/8	9/11	9/15	9/21	9/26	9/29	10/3
	気仙沼	940℃	8/31	9/4	9/8	9/13	9/17	9/20	9/24
		1,000℃	9/3	9/7	9/11	9/16	9/20	9/23	9/27
		1,100℃	9/8	9/12	9/16	9/21	9/26	9/29	10/3

注1) 気温の積算値は8月16日までは各地点の実測値、8月17日以降はアメダスの平年値を用いた  
 2) 出穂期後の積算平均気温到達推定日は、出穂期翌日からの積算平均気温が、940℃、1,000℃、1,100℃を越えた日とした  
 3) 本年の県平均出穂期は7/29(平年値8/6)、出穂後40日目は9/8、出穂後45日目は9/13  
 4) 刈取盛期平年値は9/30、前年値は9/27

## 大豆情報

### 【8月10日現在の生育概況：標播（5/25播種）77日後、晩播（7/3播種）38日後】

- ・標播栽培は、開花期は平年並であった。播種後から晴天が続き降水量が平年より少なく、主茎長は平年並～やや短く、分枝数は平年並～やや少ないが、主茎節数は平年並であり、総節数は平年並～やや多い（表7）。
- ・晩播栽培は、開花期は平年並であった。播種前に適度な降雨があり、出芽状況は良好であり、その後降水量は少なく気温が高く推移したことから、茎長は平年並～やや長く、主茎節数、総節数は平年並～やや多い（表7）。

表7 8月10日現在の生育状況 (作況試験ほ)

播種期	品種名	栽植密度 (本/m <sup>2</sup> )	開花期 (月・日)	莖長 (cm)	莖径 (mm)	主莖節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)		
標播 (5月25日)	あきみやび	14.6	本年	7.24	73.2	11.6	16.4	3.8	52.8	
		13.9	本年	7.24	73.7	10.5	16.0	3.8	43.4	
			13.9	平年比(%)	▲1日	89	103	96	99	100
	あやこがね	13.6	本年	7.25	86.2	12.2	17.4	3.3	46.7	
		13.6	平年比(%)	▲1日	99	121	100	98	115	
	タチナガハ	14.1	本年	7.26	76.9	11.7	16.5	3.6	41.5	
14.3		本年	8.1	96.3	12.2	18.7	3.6	47.8		
		14.3	平年比(%)	±0日	88	108	100	85	99	
晩播 (7月3日)	あきみやび	29.7	本年	8.10	36.7	6.6	10.3	1.3	14.0	
		28.7	本年	8.10	48.6	6.0	10.3	1.0	14.1	
			28.7	平年比(%)	1日	102	107	104	123	110
あやこがね	29.3	本年	8.10	50.1	5.9	10.6	0.5	12.6		
	29.3	平年比(%)	▲1日	110	100	108	78	104		

注1) 平年比は過去5ヶ年の平均値との比。ただし開花期のみ平年差を表し、「▲」は早いことを示す  
 2) 「あきみやび」及び「タチナガハ」は供試期間が5ヶ年に満たないため平年値はない  
 3) 栽植密度の設定は標播は条間75cm・株間20cm、晩播は条間75cm・株間10cmとした

【これからの栽培管理】

- ・子実肥大初期～中期（8月下旬～9月上旬）に「マメシクイガ」，「フタスジヒメハムシ」及び「紫斑病」を対象とした殺虫剤，殺菌剤を散布する。
  - ・「ジャガイモヒゲナガアブラムシ」は8月以降に多発して，収量・品質に影響を及ぼす場合がある。大豆の葉をよく観察し，発生が多い場合は早期に殺虫剤散布を行う。
- ※薬剤の選定の際は最新の農薬登録情報（[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）を確認する。また，農薬を散布する際は周辺作物の収穫時期に注意し，農薬が飛散しないよう防止対策をとるとともに，使用状況を必ず記帳する。

麦類情報

【高品質麦生産のための適期播種】

- ・本県の麦類は秋播き栽培が一般的であり，播種時期が遅れるほど気温が低くなるため，初期生育量が不足し，収量と品質が大きく低下する（図2）。
- ・地域別の播種適期を目安として，水稻収穫後に後作麦の作付予定地や作業計画などを策定し，適期の範囲で早く播種できるよう努める（表8）。

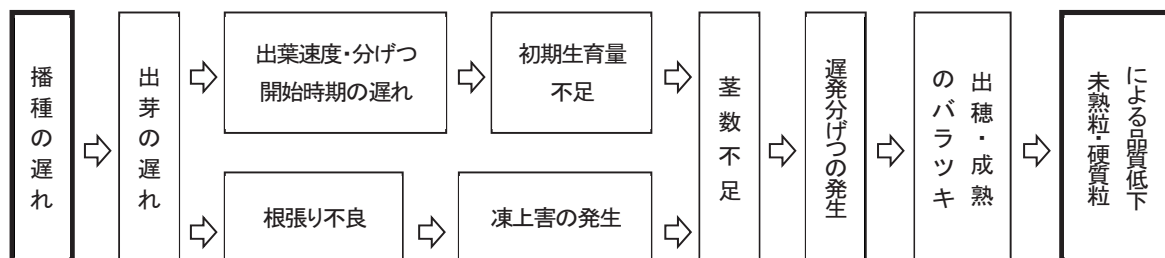


図4 播種の遅れによる弊害

表8 麦類の播種適期

地帯区分	播種適期	播種晩限
北部平坦	10月 5～10日	10月 20日
南部平坦	10月 15～20日	10月 30日
三陸沿岸	10月 5～10日	10月 20日

注) 小麦品種[あおばの恋]は上記期日よりそれぞれ10日遅い適期・晩限

稲作情報や発生予察情報をより早くご利用いただけるよう，下記の web サイトに情報を掲載しています。また，内容に関するお問い合わせは古川農業試験場（0229-26-5100）までご連絡ください。

- 【稲作情報：古川農業試験場】 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hk-nousi/>
- 【発生予察情報：病害虫防除所】 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
- 【気象予報：仙台管区気象台】 <http://www.jma-net.go.jp/sendai/>

(次回発行予定 総括号 12月下旬)